

# みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 90

東北森林管理局



駒ヶ岳から岩手山を遠望

## contents

### 「地域と連携した自然再生への取組」

—— 特集 | 指導普及課

### 「地域力で自然再生（協働の森づくり）」

—— 美しい森林づくり | 米代東部森林管理署

### 「四季の彩り 神通峡（じんつうきょう）」

—— 我が署の名所 | 山形森林管理署



2011・国際森林年



みどりの東北



# 地域と連携した 自然再生への取組

指導普及課

東北森林管理局では、植生回復や

生物多様性の確保が必要とされる  
国有林において、学識経験者や関係  
機関、NPO等と連携を図りつつ、損  
なわれた森林生態系を取り戻す自  
然再生事業を実施しています。

## ①白神山地世界遺産地域周辺

津軽白神森林環境保全ふれあいセ  
ンターは、青森県鯉ヶ沢町において、  
自然再生活動や森林環境教育及び  
モニタリング調査並びに白神山地巡  
視活動の支援を行っています。ふれ  
あいセンターでは、白神山地世界遺  
産地域周辺の造林地を元の自然に  
戻すため、日本山岳会、日本ユネスコ  
協会、白神山地を守る会などのNP  
O等と協力して広葉樹林を復元す  
る取り組みを行っています。

これらの活動を適切かつ効率的に  
行うため、学識経験者等からなる「白  
神山地周辺の森林と人との共生活  
動に関する協議会」を設置して、平  
成20年度に自然再生計画を策定し、

再生活動を行っています。

今年度も、自然再生計画書（自然  
再生マップ）に基づき、林内からブナ  
やイタヤカエデ、トチノキなどの幼齡  
木を採取し、苗床を作って仮植しま  
した。7月に2回実施し、14名のボ  
ランティアに参加いただき、今後も実  
施予定です。



幼齡木の採取の状況

また、9月には「白神山地を考え  
る旬間」の行事の一つとして、鯉ヶ沢  
町の小学生を対象に、次世代を担う  
子供たちに森林散策や森林づくり  
体験をしてもらうなど、森林とのふ  
れあいを通じて、豊かな森を守り育

ていくこと、また白神山地について  
理解を深めてもらうことを目的に、  
ブナ、イタヤカエデなどの広葉樹の  
植樹体験を実施しました。

## ②土湯の森

### （鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊）

朝日庄内森林環境保全ふれあいセ  
ンターは、山形県鶴岡市において、森  
林生態系の保全及び再生に取り組  
んでおり、緑の回廊に含まれる最上  
川スキー場跡地の自然再生に取り組  
んでいます。

スキー場跡地の植生を復元するた  
め、地元関係者、自然保護団体、学識  
経験者、関係行政機関で構成される  
「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」（土  
湯の森）自然再生検討会」及び「同  
実施協議会」による自然再生実施計  
画の策定を経て、現在、植樹や更新  
補助作業などの自然再生活動をボ  
ランティアや関係機関とともに展開  
しています。

本来あった森林を取り戻す自然再

生の取り組みは、成果が出るまで長  
い年月を要しますが、両ふれあいセ  
ンターが地域の窓口となつて、NPO等  
ボランティア団体や関係機関と一緒  
に、様々なニーズに添えていくと  
もに、自然再生活動を進めて参り  
たいと考えています。



自然再生活動に参加された皆さん



ボランティアによる刈払い作業中



## 地域力で自然再生 (協働の森づくり)

米代東部森林管理署

8月27日(土)、管内の鹿角市八幡平熊沢国有林において、(社)鹿角青年会議所と当署が連携し、一般市民の参加を得て「地域力で自然再生」をテーマに、協働の植樹会を行いました。

植樹した箇所は、平成9年5月に発生した大規模地すべり災害である「澄川・赤川温泉土砂災害」の復旧跡地内で、昨年9月に「鹿角八幡平ふるさと森林づくり植樹祭(COP10パートナーシップ事業)」(主催は東北森林管理局・秋田県・鹿角市・米代川源流自然の会)が行われた箇所に近接する箇所で行われました。

同会議所では、今回の植樹について、地域住民と協働して行うことを通して、鹿角の自然のすばらしさ、森林の働き、大切さなどについて実感してもらおうとともに、地域の自然を愛する心を一層育み、皆んなで鹿角を元気にしていこうとの趣旨で年間行事の一つとして取り組むこととしたものです。

また、同会議所では、日頃から他県に誇れる素晴らしい鹿角の自然を活

用し、地元小学生を対象にしたキャンプ事業等、毎年、地域の元気に繋がるよう各種事業に取り組んでいるとのことです。

今年も、昨年の国連が定めた「国際生物多様性年」に続き「国際森林年」ということであり、当署としても、昨年の「国際生物多様性年」における取り組みとしての植樹祭の実施に続き、「国際森林年」の趣旨に沿って、地域と一体となった協働の取組等を推進していくこととしたものです。

なお、当日は晴天に恵まれ、地元住民など約30名が参加し、郷土樹種であるブナ、ミズナラの苗200本の植樹に汗を流しました。

また、植樹に当たっては、参加者ひとり一人が、植えた苗木の元気な成長と同じく東北の震災被災地の一日も早い復興に祈りを込めて丁寧な植え付けを行いました。

参加者からは、「昨年の植樹祭にも参加させてもらいましたが、昨年植えた苗木が、枯れずに成長している姿を見て安心しました。今日、植えた苗木も無事に成長し、この場所

が一日も早く元の森林にもどることを願っています。」などの声が聞かれました。

今回の協働の取組については、鹿角青年会議所から国有林内で植樹活動を実施したいとの要望があったことから、当署において、目的に沿った適地として同箇所を選定し、協働で実施することになったものです。

これからも、地域等との協働の取組に当たっては、地域の方々の声を聞きながら、地域活性化に繋がる各種取組等に対し、フィールド提供等の連携協力について積極的に対応していきたいと考えています。



協働植樹会の様子

## 「雪に襲われた森—大規模な冠雪害—」

森林総合研究所東北支所 森林環境研究グループ 安田幸生 Yukio Yasuda  
育林技術研究グループ 櫃間 岳 Gaku Hitsuma

2010年12月下旬に降った雪によって、岩手県内陸北部を中心とした地域の林分において大規模な冠雪害が発生しました。今回の冠雪害は短期間に生じた二回の大雪によって被害規模が拡大したものと思われます。この地域において大規模な冠雪害が発生することは珍しく、30年から50年に一度の規模とも言われています。冠雪害とは、樹冠に着雪(冠雪)した雪の荷重によって樹体が破壊される気象災害です。その発生条件は気象条件により幾分異なるようですが、気温が $-3^{\circ}\text{C}$ から $+3^{\circ}\text{C}$ の間で、湿った重い雪が大量に降る(降水量換算で30mm以上)と被害確率が高まります(愛媛県農林水産部、1987;森澤、2005)。被害形態は、梢折れ、幹折れ、幹曲がり、根返りなどが挙げられます。冠雪害の被害は、スギ、カラマツ、アカマツの造林地をはじめ、広葉樹(おもにシラカバ)においても見られました。森林総合研究所東北支所では雪解け後の5月中旬から被害林分の調査を開始しましたが、現在わかっていることは、1) 甚大な被害が多く見られる地域は、一戸町から姫神山麓・岩洞湖を通り、米内川・中津川流域に至る南北の範囲で、北上山地西側に集中していること、2) 針葉樹の造林地では、林齢が20~30年の林分において被害が目立つこと、です。

岩手県一戸町では大志田ダム(菜魚湖)周辺のおもにアカマツ林において壊滅的な被害が発生しました。図1に、一戸町奥中山のアメダスで観測された2010年12月20日から31日までの日降水量、最深積雪深、日平均気温、日最大風速のデータを示します。降水量をみると12月22日(73mm)と12月31日(71mm)の両日がとくに大きいことがわかります。12月31日の気温は $-3.0\sim-0.1^{\circ}\text{C}$ (平均 $-1.3^{\circ}\text{C}$ )であり、このときの大雪は冠雪害発生条件を十分に満たしていました。実際、現地の方に話を聞いてみると、12月31日から翌1日にかけての晩に、多くの木が折れたようです。一方、12月22日は積雪深の変化は少ないですが、この日は夕方以降、雨足が強くなり、

同時に気温が下がり( $3^{\circ}\text{C}$ 以下)、風が強まりました。想像するに、雨はみぞれになり、湿雪へと変化していったと思われます。異常に濡れた雪が強風によって吹き付けられると樹体への大量着雪が生じ、冠雪害が発生することが確認されています(石川ら、1987;小野寺、1990)、このときも冠雪害の発生条件を満たしていたと考えています。22日の降水は23日の午前中まで続き、その晩からぐっと冷え込みはじめます。このとき樹体に着雪した雪は凍りつき、落下しにくい状態になったと考えます。このため、その後に降った雪の捕捉量も助長させたことでしょう。樹冠への着雪によって頭が重くなっている木々に対して、12月31日の大雪が襲います。これが決定的な一撃となって、大規模な冠雪害が生じたものと考えます。

冠雪害の発生条件や被害形態の実態把握は、今後の冠雪害対策に大いに役立つと考えています。森林総合研究所東北支所では、被害林分調査を継続し、冠雪害の危険性を軽減する対策を考えていきたいと思っています。

### 引用文献

石川正幸、新田隆三、勝田 柁、藤森隆郎(1987) 冠雪害一発生のおくみと回避法一、(財) 林業科学技術振興所、pp.101  
愛媛県農林水産部林政課(1987) 森林の気象災害防止技術指針、昭和61年度緊急技術改善普及事業、1-23  
森澤 猛(2005) 危ない雪はどこに降るか?—冠雪害の危険地域区分一、フォレストウインズ、森林総合研究所東北支所  
小野寺弘道(1990) 雪と森林、(財) 林業科学技術振興所、pp.81

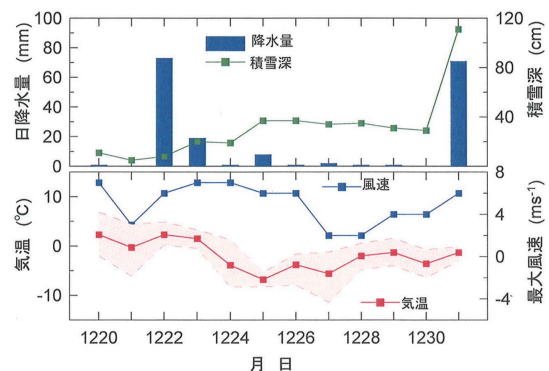


図1/奥中山アメダス(岩手県一戸町)での降水量、積雪深、風速、気温の様子(2010年12月20日から31日)。気温の帯(点線)は日最高・最低気温を表す。



みどりの東北

森林教室で  
下刈林業体験

岩手北部森林管理署



7月13日(水)田山小学校5年生、6年生を対象に「昨年植樹した樹木の下刈体験と、田山地区の水源地を探してみよう」をテーマに今年3回目の森林教室を開催しました。

当日、林野庁治山課の乾課長補佐を特別講師に迎え、1時間目は教室において、世界の森林と日本の森林の比較や世界の森林が減少している状況、また、日本に残存している大木の分布位置、荒廃地の森林復旧、海岸防災林造成、これを達成するための先人の植林などの苦労を講義した後、3月11日に発生した東日本大震災の惨状、それに対する海岸防災林の効果などについて資料やパワーポイントを用い解りやすく講義をしました。

質問に入り生徒達から「大木はどうして日本の南に多いのか」「日本は森林が多いと説明されたがどうして家を建てるのに利用されないのか」の素直な質問に汗をかきかき答えていました。

その後、昨年植樹祭で広葉樹を植栽した箇所を下刈体験をしました。



各地からの  
便り

下刈りをする目的と安全について説明を受けた後、生徒たちは汗だくになりながら下刈鎌で作業を実施し、作業の大変さと、毎年広い面積を下刈している人々の苦労を実感しているようでした。

また、積雪や野ウサギ等の被害によつて折れているもの、芯が枯損しているものが多数あり、自然の厳しさや、

折れた下側部分から新葉がでている自然の力強さを体験を通しながら学んでいました。

最後に田山地区の水源地となっている水源林に行き、湧水地と水源林を間近に見た生徒たちは山腹の岩盤から大量に流れ出る水を見て、「木の根の下からポタポタ落ちていると考えていた」など自分達が予想してい



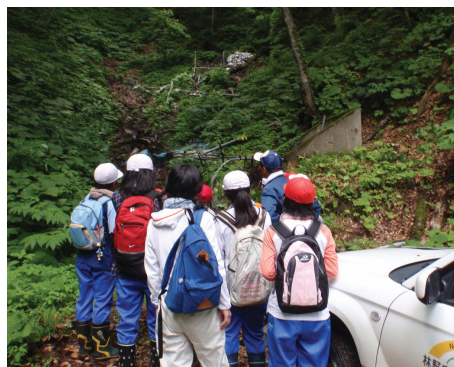
熱心に質問する生徒



下刈作業の様子

た水源との違いに驚いている様子でした。

この取り組みは、毎年度継続して地域発案システムとして取り組んでおり、年度初めに小学校側と打ち合わせを十分に行い年間の学習計画を作成し実施しているもので、今後2回計画されています。



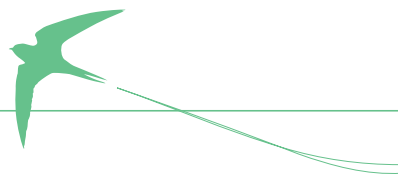
水源の流量に感激する生徒

ボランティア団体と  
連携して森林浴道を整備

三陸中部森林管理署



北上山地のなかでも最も海に近い五葉山は、三陸では希に見るブナやヒバなど優れた自然景観が広がり「植物群落保護林」及び「自然観察教育林」に設定されています。特に、住田町側の山麓には、森林浴に適した自然林が広がり、昔の馬車道約2kmの



古道を歩くコースは絶好の散策の場として活用されています。

7月24日(日)、地元の五葉山自然倶楽部と住田町及び森林管理署との3者が連携し、自然観察の機能向上を図るため、保護林看板や案内標識の設置を行い散策路の整備を行いました。

ボランティア団体と連携することのよきな取り組みは初めてでしたが、国際森林年である今秋に「森を歩く」のテーマと連動させた数々の散策イベントも計画されていることから半年前から準備が進み、署で看板を調達、倶楽部の会員の方々が作業に協力する形で行われました。



ボランティア団体による保護林看板の設置

当日の整備作業には、同倶楽部から15名の参加があり、看板設置などに汗を流しましたが会員の方は「五

葉山の魅力を後世に伝えられるよう何か手伝いをしたかった。これでいい思い出が残せる」と満足気の様子でした。森林管理署では、この整備をきっかけに五葉山を訪れる人々が増え活気があふれることを期待しております。

なお、この五葉山自然倶楽部は会員70名で平成10年に発足し今年で13年目、この間地元自然豊かな五



案内標識4基と樹名板22枚を取付

葉山の魅力を広く伝えようとさまざまな活動を展開しています。中でも地元東海新聞に「五葉山の魅力」と題し、2年余にわたりリレーエッセイが掲載されましたが、その内容を再編し「五葉山―それぞれの生きるかたち」と題し、10月には出版を予定するなど情報発信にも情熱的に取り組んでいる団体です(本誌に関



五葉山の魅力を発信し続ける自然倶楽部の皆さんと記念撮影

する問い合わせは、五葉山自然倶楽部事務局長 千葉修悦氏まで。

### 森と湖に親しむ旬間

#### 『田瀬ダム・森林探検隊』を開催

岩手南部森林管理署遠野支署

7月30日(土)、国土交通省田瀬ダム管理支所、電源開発東和電力所及び当支署による「田瀬ダム・森林探検隊」を開催しました。

この行事は、森と湖に親しむ旬間行事として毎年三者が協力して開催しているもので、今回は一般公募による3歳から65歳の老若男女16名が参加しました。

当日は、田瀬ダムの堤体内に入りダムの果たす役割や、発電所で発電の仕組み、森林の中で樹木や森林の

働きなどについて参加者に理解を深めていただきました。

森林探検では、最初に支署長が、地球温暖化防止や土砂災害の防止など森林の果たす役割について説明しましたが、途中雨に見舞われてしまいました。それでも楽しみにしていた探検に出発、支署職員による樹木の働きや名前のいわれなどの説明に感心していました。中でも子供たちは、予め職員が散策路に表示したクイズを元にした問いかけに元気な声で答え、「次はなあに?」「あった!」と歓声を上げたり、花や昆虫に眼を輝かせ、雨が上がるのも気付かないほど夢中になっていました。

今回は、他の行事と重なったせいか参加者が例年の半数ほどでしたが、森林の不思議さに驚きながら探検



支署職員の説明に聞き入る参加者



みどりの東北

を楽しむ親子の姿が印象的でした。

「森林整備事業  
安全講習会」に参加して

仙台森林管理署 川崎森林事務所  
森林官 高城允



7月28日(木)、伊具郡丸森町秋芝山国有林内において、宮城県森林整備事業協同組合主催による「平成23年度森林整備事業安全講習会」が開催されました。

この講習会は、宮城県内で国有林の造林、生産請負事業を担う民間事業者、森林組合等の関係者など約130名が参集し、当署はフィールドの提供を行い、東北森林管理局は安全指導の講師を派遣しました。

午前中の現地での講習会では、実際に当該箇所を請け負った事業者の作業員により、スギ2年生植栽地での下刈作業を行いました。作業中の足場・足元の確認の励行、上下作業及び接近作業の禁止、防蜂網の着用などを改めて確認しました。今年度に入り、夏場の請負事業者における災害がハイペースで増加している状況にあり、監督業務を行う森林官として、引き続き、作業内容についての指導を含め、労働安全の意識向上に向けた指導を丁寧かつ強力に行うことが

大切だと感じました。

午後からは、白石市ホワイトキューブ・コンサートホールにおいて、大河原労働基準監督署安全専門官より、林業現場における労働災害の発生状況や対策について講話がなされたほか、東北森林管理局より、造林事業、生産事業において安全作業を行う上でのポイントについて指導が行われました。

具体的な内容をいくつか挙げると、ヒューマンエラー(人間への信頼性が機械に比べ、不確実な面が多いこと)に起因する失敗による災害が多く、その対策としては、安全のルールを守る日頃からの雰囲気作りが大切であること(参考:「林材安全」平成23年1月号)、かかり木処理・刈払いの災害が毎年減らないが、原因が転倒・キックバックと同じであること、緊急連絡体制が実際に機能するよう再確認すること、などについて話がありました。

また、各講話後には今回参加された事業者の方々から、作業道具の選び方や補助金の交付状況などについて質問がありました。

これから各種事業が最盛期に入るところであり、この時期に安全講習会が開催されることで改めて安全意



下刈作業箇所での講習

識を高め、労働安全の確保に向けた取組を強化していただきたいと思えます。現場の森林官においても、今回の講習会で安全意識を再確認して指導していくことが大切だと思います。

夏休み親子森林教室の開催  
指導普及課



7月29日(金)、仁別自然休養林(仁別国民の森)において、親子8組16名(子どもの参加は全て小学生以下)の参加で森林教室を開催しました。

当日は、小雨がぱらつくあいにくの天候でしたが、参加した子どもたちの目はキラキラと輝いており、仁別森林博物館周辺の自然観察では、同森林博物館ボランティア案内人の方

からいろいろな植物、昆虫、水中生物などを教えて頂き、手で触れたり、臭いを嗅いだりしながら歓声をあげていました。

昼食の後は、ドングリや小枝を使ったクラフト作りや、間伐材を利用したプランターカーバーの作成を行い、親子で協力しながら力作を完成させていました。

最後に、当課職員が夜な夜な採取したクワガタを子どもたちにプレゼントし、盛り上がりは最高潮となりました。



仁別森林博物館前で記念撮影する参加者一同(^ ^)/

# information



みどりの東北

## welcome

新任者略歴紹介

※平成23年8月16日付



山形森林管理署長  
**崎野 健輔**  
Kensuke Sakino  
(鹿児島県)

昭和60年4月／農林水産省入省採用  
平成9年4月／前橋局山口署長  
平成14年4月／林野庁経営課 課長補佐  
平成21年4月／林野庁経営企画課 企画官



津軽森林管理署長  
**野口 浩司**  
Kouji Noguchi  
(福岡県)

昭和59年4月／農林水産省入省採用  
平成6年4月／青森局安代署長  
平成16年4月／林野庁森林保全課 課長補佐  
平成21年9月／近中局計画部長

### ミニコラム

「へえ～、そうなんだ!」

## 涼を感じる羊歯の魅力

クジャクシダ(イノモトソウ科)・イヌガンソク(オシダ科)  
リョウメンシダ(オシダ科)・シシガシラ(シシガシラ科)

岩手北部森林管理署 技術専門官

**松尾 亨**  
Tooru Matsuo

**節** 電の夏は、「釣り忍に風鈴」と言った風情たっぷりな過ごし方はいかがですか?・・・今回は残暑を涼しげな気分にしてくれるシダ類を紹介します。シダ類は一見地味な植物ですが、よく観察すると美しい縮れ模様や、クルクル曲線の新芽が色鮮やかでガーデニングや室内でのウオーターガーデンでの人気が出てきています。

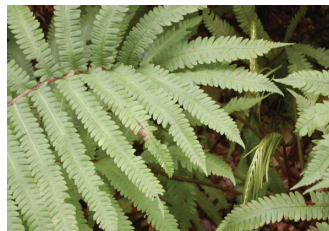
クジャクシダは、濃い紫色の葉柄に緑で艶のある小葉をつけ、羽状に10対ほど広げた葉の形を、孔雀が羽を広げた姿に喩えた由来。イヌガンソクは、1m以上で円形に束生し、夏に写真の右下のように胞子葉を出します。その形が雁の足に似ている(逆さに見る)ことから由来。

リョウメンシダは、その名のごとく葉の表と裏が同じように見えるからで、小葉が細かく分裂し模様が大変美しい。シシガシラは、細長い小葉を一本に羽状につけ、四方に複葉を広げる姿を獅子のたてがみに見立てたのが由来です。

夏の風物詩「釣り忍」は針金や竹などの土台材に、丸めたコケを巻き付けシノブ等のシダを植付けたもので、江戸時代に庭師が夏のご挨拶に配ったものが起源と言われています。私も何個か作ったことがあるのでけっこう簡単にできますよ。来年はシダとコケのウオーターガーデンに挑戦しようかな?



クジャクシダ



イヌガンソク



リョウメンシダ



シシガシラ

# 自然との調和、 そして地域とのつながり

盛岡森林管理署 雫石森林事務所

柏崎清文

Kiyofumi Kasiwazaki

「雫石」という名の由来を調べてみると、昔、神社の境内にあった杉の巨木の根元から湧き出る清水が、岩を伝って「たんたん」と音を立てて落ちるので、人々が水神様として拝み「滴水たんたん」と呼んで親しんだことに始まると伝えられており、実際、藩政時代には「雫石」は「滴水」と表記されていたそうです。

私が勤務する雫石森林事務所は、北東北地方の拠点都市である岩手県盛岡市の西方約16kmに位置する雫石町にあります。町の人口は約18,000人、総面積が60,901haで、うち森林面積が49,546haと町全体の80%以上を占めています。そのうち国有林は32,163haあり、町の森林面積の約65%、総面積に対しても約半分を占めています。

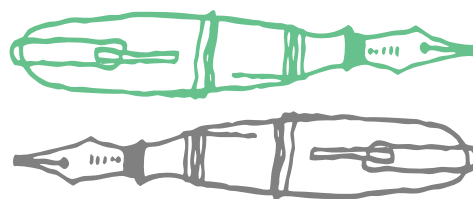
また、秀峰岩手山をはじめ1,000m以上の山が連なり、これらの山岳や高原が大部分を占め、標高300m以上が総面積の約80%に達しており、山麓部には広大な傾斜地が開かれ、森林、牧野、田畑などがのどかな田園風景をつくりだしています。

私は、昨年の8月からこちらで勤務しておりもう1年経過しましたが、職場の上司や先輩・同僚の方々に支えられながら、森林官業務である境界管理、収穫調査等をメインにして、この広いフィールドの中を駆け回って日々の業務を行っています。

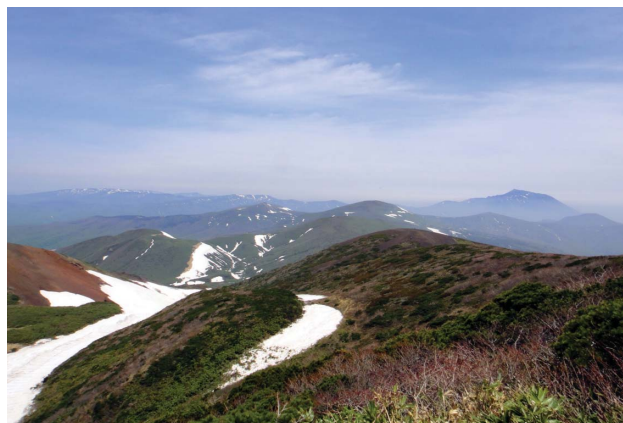
当事務所管内では、秋田駒ヶ岳と岩手山の山開きが毎年



復興を祈念し岩手山山頂を目指す



森林官からの手紙



駒ヶ岳から岩手山を遠望(表紙)

開催されており、今年は両方の登山に参加することができました。今回は特に、3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々の早期の復興を祈念した登山となり、参加者も例年以上に多く、私も山頂で一刻も早い復旧復興を祈念してきました。

雫石町は、自然が豊かで観光地等も充実しており大変住みやすい町だと感じていますが、この豊かな自然との調和を図りつつ国有林野事業を推進していくためには、今後とも地域からの声を可能な限り収集し、連携・協調していくことが不可欠であると思います。これからも、地域とのつながりを大切にし、微力ながら業務に取り組んでいきたいと考えています。



緑に包まれる雫石町

山形森林管理署

〒991-0053 山形県寒河江市元町1-17-2  
tel.0237-86-3161 fax.0237-86-3163

【我が署の名所⑥】  
山形県西村山郡大江町  
——神通峡

# 「四季の彩り神通峡」



**山** 形県大江町の南西部に位置する神通峡は、「朝日連峰」を源とする月布川の流れがくりあげた渓谷です。

その深い渓谷とヒメコマツ・ネズコが混交する広葉樹林が、四季の変化に富んだ彩りを見せてくれる景勝地であり、朝日連峰の眺望地点として山麓随の大頭森地区と合わせ「神通峡・大頭森風景林」に設定しています。

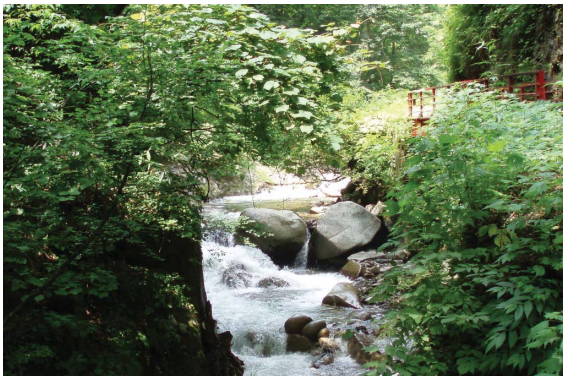
渓谷沿いには遊歩道（滝前口から古寺砂防堰堤まで4.1km）、トイレ、東屋が整備されており、草木供養塔のある滝前口と古寺砂防堰堤の両側に駐車場があります。

神通峡には、かつて国有林野事業のための

森林軌道（鉄道）があり、昭和42年に廃線となりました。その後、軌道跡の整備を町が行い、深山幽谷にいざなう遊歩道として蘇らせたものです。

渓谷の清らかな流れと、春の新緑、夏の青葉、秋の紅葉と四季折々に変化する自然の美しさを堪能でき、6月には新緑が、10月中旬からは紅葉が見ごろとなります。

みなさんも、この美しい自然の中、ハイキングやバードウォッチでリフレッシュしてみませんか。なお、神通峡を楽しめるのは、5月中旬から11月上旬までの期間限定です。冬期間は閉鎖となりますのでご注意ください。



●交通アクセス  
寒河江ICから大江町まで車で約10分。そこから神通峡まで車で約40分。

**神通峡の由来**  
本郷村と七軒村が合併して漆川村が誕生した昭和二十九年、山形県知事安孫子藤吉氏は、当時の漆川村長からの深谷への命名の依頼を受けた。氏は、ここに遊び、漆川と古寺千眼寺に古跡の意義を求め「神通峡」と命名した。知事からの説明には、次の一文が添えられていた。  
法華経観音普門品（ふせんほん）にいわく  
具足神通力（神通力を具足し）  
広修智方便（広く智方便を修め）  
十方諸国土（十方をまわるとる国土）  
無刹不現身（刹として身を現せざること無し）  
漆川（月布川の古い呼び名）の上流に千眼寺の古跡あり。この千眼寺の名こそは観世音大慈大悲の神通力があらゆる国土、あらゆる瞬間にも至らざる無きを表現したものである。漆川（月布川）の包蔵する福利は開発によって無限の神通力となるであらう。一面、また朝日の霊峰万古の雪に通ずる一線でもある。この流れを汲むものは奇（ひ）しく神通力の分身である。よろしく、和衷協同、自重自励すべきである。  
神通峡は、まさに、朝日山地の雪深を源とした、岩ばしる真清水と垂水がおりなす無窮の深谷である。  
平成十五年秋 大江町

●東北森林管理局のホームページをご覧ください  
[www.rinya.maff.go.jp/tohoku/](http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/)

みどりの東北 第90号 | 発行月●平成23年9月  
発行●東北森林管理局 秋田市中通5丁目9-16 tel.018-836-2192

東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。